

IMF サーベイ

2010 年の IMF

世界経済、予測以上に力強い回復 を見せるも依然として脆弱

IMF サーベイ・オンライン
2010 年 1 月 14 日



ストロスカーン IMF 専務理事は、世界経済の回復は依然として脆弱であることを強調した。(写真 IMF)

- IMF 専務理事、先進国の回復は依然として政府刺激策に依存と指摘
- 失業率「最悪はこれから」と警告
- ハイチの地震被害へ 1 億ドルの支援

国際通貨基金 (IMF) のドミニク・ストロスカーン専務理事は、世界経済は当初の予測を著しく上回る速さで回復しているものの、大半の先進国の成長は政府刺激策に依存しており、依然として脆弱だと述べた。

ストロスカーン専務理事は報道陣に対し、アジアを筆頭とした新興市場国が回復を先導している一方で、大半の先進国では、民需は弱く失業率は悪化を続けているなど、回復は依然として緩慢だと述べた。

1 月 14 日のワシントンでの記者会見で、ストロスカーン専務理事は「民間部門の回復がなければ我々が困難から脱出したとはいえない」と指摘した。この記者会見の冒頭で同専務理事は、大地震の被害にあったハイチの国民へ深い哀悼の意を表し、緊急支援として[ハイチに 1 億ドルの支援](#)を早急に実施すると表明すると共に、今後他の機関と連携しさらに大規模な支援策を打ち出すと述べた。

各々のペースでの回復

世界経済に関しストロスカーン氏は、世界各国は各々のペースで回復すると述べた。また各国政府に対し、力強い回復が根付いたという誤った認識の下で、時期尚早に刺激策を緩和することがないように要請した。また刺激策を雇用創出プロジェクトに転換させることも可能だと述べた。

IMF は[世界経済見通しの最新版](#)を 1 月 26 日に発表する予定である。

ストロスカーン氏は、危機の2年間の分析を行うと共に2010年の見通しとして、世界の金融・規制制度の再構築の作業を完了する、転換の年としなければならないと述べた。

- 2008年は**自省の年**であった。「我々の市場、制度、現状に対する信認は油断となり、我々はいかに過ちを犯し易く脆いものであり、相互に関連しているかを学んだ」
- 2009年は**団結の年**であった。「世界各国が、人道的な惨事とも成り得た深刻な経済的苦難に協力して取り組んだが、これは国際協力の真価が発揮されたといえる」
- 2010年は**転換の年**とならなければならない。「我々は規制、経済政策、ガバナンスの欠陥が危機の背景ともなったことをふまえ、それらの課題に対する取り組みという世界レベルでのプロジェクトを完了しなければならない」

規制並びに金融部門の監督は、強化のみならず改善されなければならない。しかしその目的は更なる規制を押し付けることではない。

ストロスカーン氏は、金融部門の改革のモメンタムの喪失の危険性を指摘、政策当局者に対し危機の原因を忘れることがないように求めた。また同氏は、米国政府による金融危機に関連したコストの回収に貢献すべく、米国の主要金融機関に対し金銭的負担を求めるとしたバラク・オバマ米大統領の提案について、危機が沈静化に向かっているなかでも、世界超大国が根底的な問題の解決に、引き続き注力していることを示すものだと歓迎した。

先進並びに新興市場20カ国グループ（G20）の要請を受けIMFは、[危機関連コスト回収への金融部門の貢献に向け、各国政府が取り得る施策の評価を4月までに提出する](#)予定である。ストロスカーン氏は、銀行が「利益を己のものとし損害を社会に振り分ける」システムから脱却しなければならないと述べた。

IMFの優先課題

ストロスカーン専務理事は、2010年のIMFの優先4課題を提示すると同時に、気候変動対策への支援のあり方についての提案の精査を行っており「我々は近々アイデアを提示する予定だ」と述べた。

IMFは今後10年の成長の原動力となり得る経済の再生に全力をあげる。優先4項目は以下の通りである：

- 生産・雇用の持続的回復が最優先事項でなければならない。IMFは、時期尚早或いは時期を逸した形での刺激策の解消に警戒しながら、プロジェクトの完了に必要なリアル・タイムの分析を提供する。
- IMFは現代の危機への対策に必要な融資の提供に尽力すると共に、加盟国による回復プログラムの成功裏の実施に寄与すべく、一連の融資制度の改革に努める。
- IMFは金融部門の規制の近代化及び、加盟国経済の隠れたリスクを特定・対応するメカニズムの導入に引き続き取り組む。IMFの責務及び権限の改革が検討されているが、これは同様のことを世界レベルで行う歴史的な機会である。この改革では、国のみならず特に金融部門におけるシステム上のリスク、さらに負担を伴う過度の外貨準備金の蓄積を回避するために必要な、保険を提供する融資制度を特に重点課題とする。
- IMFのガバナンス構造の改革を継続する。ストロスカーン専務理事は、年末を期限とするクォータの公平な再配分をはじめ、ガバナンス改革を遂行していくと述べた。

現代の危機は従来の国際収支上の危機と比較し大きな影響を及ぼす。また金融不安が社会的緊張を引き起こし、ひいては世界平和への脅威となることを防ぐことが肝要である。これらをふまえ、IMFの責務・権限の調整の実現が求められている。

韓国でのアジア会議開催

ストロスカーン専務理事は、1月19～21の日程で東京及び香港を訪問する予定である。この度の記者会見において同専務理事は、韓国とIMFの共催でアジアに関するハイレベル国際会議を行うことを明らかにした。同国際会議はソウルにおいて2010年7月12、13両日に渡り開催される予定となっている。

アジア地域の経済のダイナミズム、さらには国際的な政策決定の場において高まる同地域の役割について検証を行う同会議には、アジア及び世界各国より主要な政策当局者が集う。また同会議はIMFのアジアとの関係を深化させる重要な機会となるということが期待される。

本稿に関するコメントはimfsurvey@imf.orgまで。